

長岡地区租税教育推進協議会長賞 優秀

災害時に対する税のあらわれ

新潟県立長岡明德高等学校

三年 内山 なな

今回の税に関する作文について、今まで起こった様々な大規模災害について考えてみます。また、自分が体験していない災害についても考えさせられるものがあつたので皆さんにも伝えたいと思います。まずはじめに、私たちが日々こうしてスムーズに生活できているのを当たり前のように生活していませんか。周りの人がやってくれているからいいやと軽く思っていますか。では、税が無かつたら、また、支払っていないかつたら、その当たり前にある身近なことはすべて無くなります。ということは、自分の周りが汚れたままで住みづらく、また助けてほしい時に誰も来なくて命の危機が大きくなってしまふということです。税を負担しないことで自分への負担が大きくなるのが日々の生活に支障が出る訳です。考え方として三十パーセントの税金を支払っても、七十パーセントのお金が手元に残るということを有効に考えるようになると気持ち的にも軽くなりませんか。また、他の考え方として、短期的に税金を支払うことは良い気分がしないですが、長期的には会社の財務体質も強くなり手元にお金も残るから、税金を支払うことにはメリットもあると言えます。

こういったしくみの中の一つに私たちのために使われているものがあります。それは災害です。私は今までいくつもの災害を経験してきました。その中で特に心に残っているのが中越地震です。大きな揺れと共に家の家具がどンドンと崩れ落ち、足の踏み場所もなく机の下でひたすら耐えていました。やっと揺れが落ちつくと家族全員で外へ避難しようとしたのですが行くまでにガラスの破片や落ちてきた家具でスムーズに通れませんでした。やっとで外へ避難し、揺れも再びくる中、この被害の恐ろしさに震えが止まりませんでした。また、ちようど晩ご飯の時間だったのでお腹も空き始め、力もなく疲れ果てていた時、救急隊員の方々が自分たちの場所まで駆けつけて下さり、防災グッズや食料を調達しに行き、少しずつ分けて下さり、とても安心させてくれるものでした。またラジオやテレビなどで他の地域が土砂崩れを起したり、逃げ遅れた方々が発見されていく中で救急車や消防車、または警察の方々が駆けつけて助けているという姿を次々に目や耳で感じ取ることができました。その当時は、まだ自分自身も幼く、救急車などが駆けつけることは当たり前だと思っていたのですが、こうして税について考える機会を通して深く学んでいくことで、日々少しずつ支払って積み重ねていったものが、こうしていざという時に使用され、発揮できているんだと知ることができました。災害というものは日々あるものと違って、いつくるか分からないものであるけれど、だからこそ日常でちよくちよく税も備えておくことで人間のためにいざ助けてくれる大切な存在であることを胸に置いて一人一人が税の使われ方を悪いことばかりではなく良いところを感じていってほしいです。